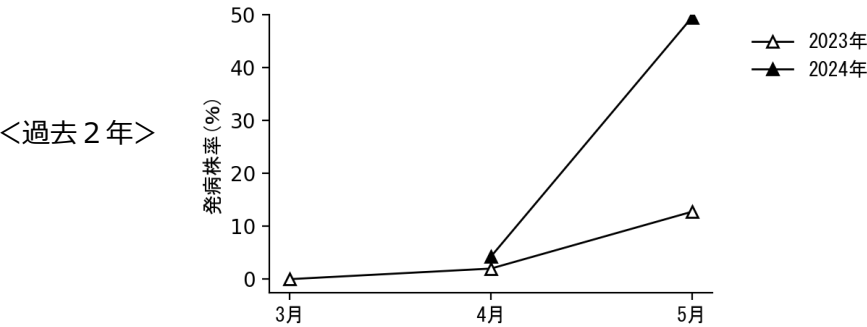
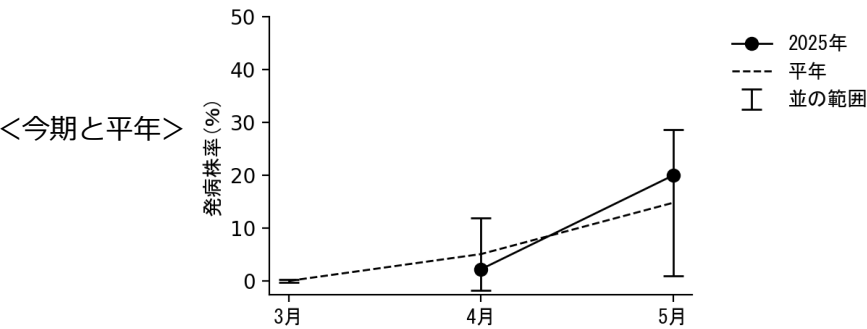


作物	水稻（1期）		地域	八重山群島
病害虫名	葉いもち病			
調査結果	5月の発生量（平年比）	並		
予 報	5月からの増減傾向	—		
	6月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

発病株率の推移



・発生ほ場率87.5%（平年：52.0%）

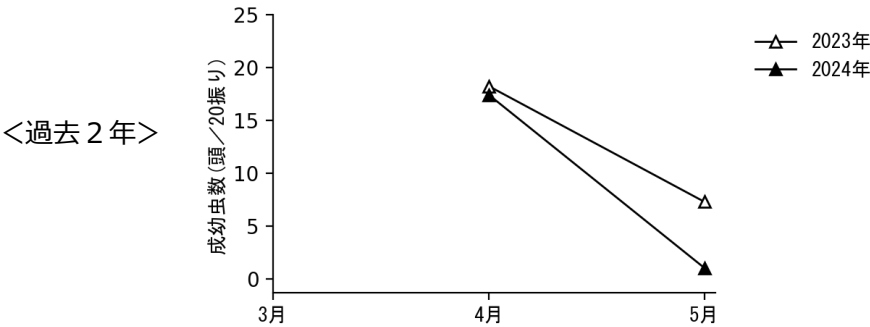
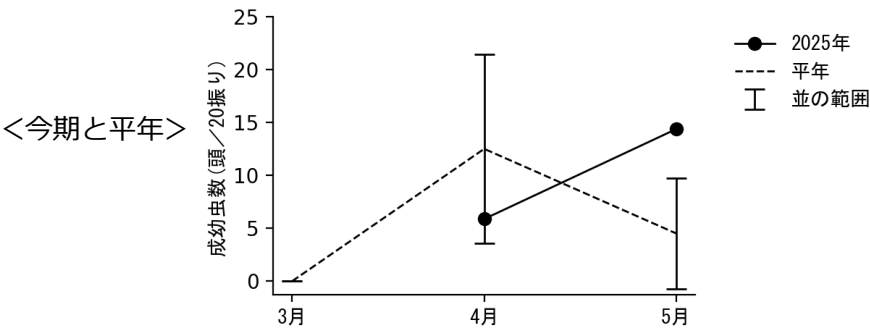
防除のポイント

- ・収穫後の被害わらは次作の感染源となるため、水田付近に放置しない。
- ・汚染もみは次作の感染源となるため、発生ほ場からは採種しない。

作物	水稻（1期）		地域	八重山群島
病害虫名	セジロウンカ			
調査結果	5月の発生量（平年比）	やや多		
予報	5月からの増減傾向	—		
	6月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率100%（平年：56.9%）

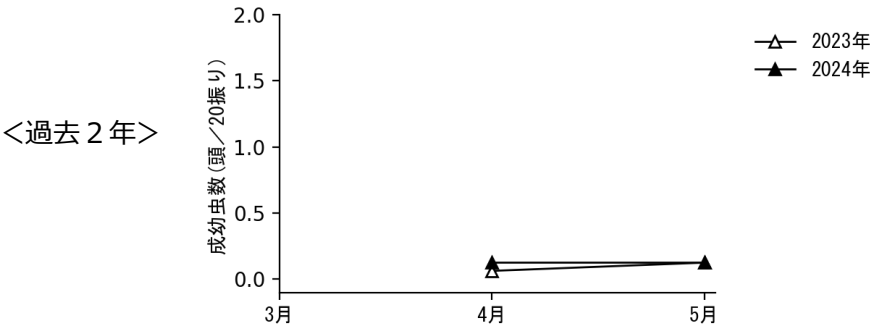
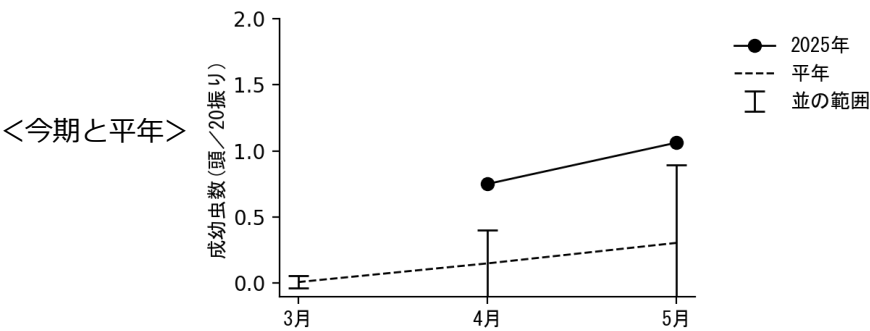
防除のポイント

・ウンカ類は株元に生息するため、薬剤防除を行う場合、株元に十分に薬剤がかかるように心がける。

作物	水稻（1期）		地域	八重山群島
病害虫名	ツマグロヨコバイ			
調査結果	5月の発生量（平年比）	やや多		
予報	5月からの増減傾向	—		
	6月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率50.0%（平年：12.1%）

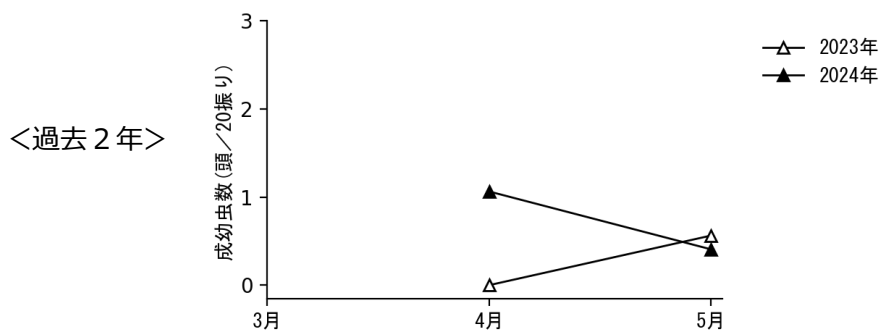
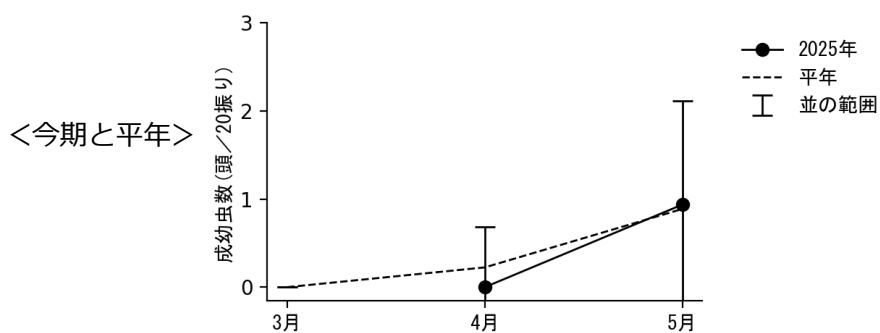
防除のポイント

・水田周辺の雑草防除を行い、発生源を少なくする。

作物	水稻（1期）		地域	八重山群島
病害虫名	斑点米カメムシ類		 アカスジホソナガカスミカメ	
調査結果	5月の発生量（平年比）	並		
予報	5月からの増減傾向	—		
	6月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

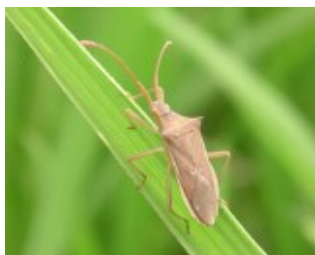
成幼虫数の推移



- ・発生種：アカスジホソナガカスミカメ、ホソハリカメムシ類、クモヘリカメムシ類
- ・発生ほ場率37.5%（平年：28.7%）

防除のポイント

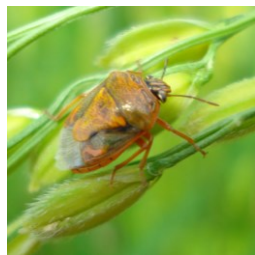
- ・次作に向けた密度低減を図るため、収穫後に畦畔および水田周辺の除草を行う



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ



アカカメムシ

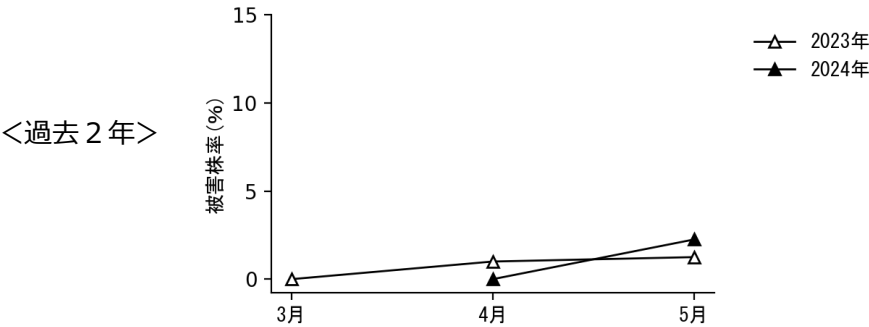
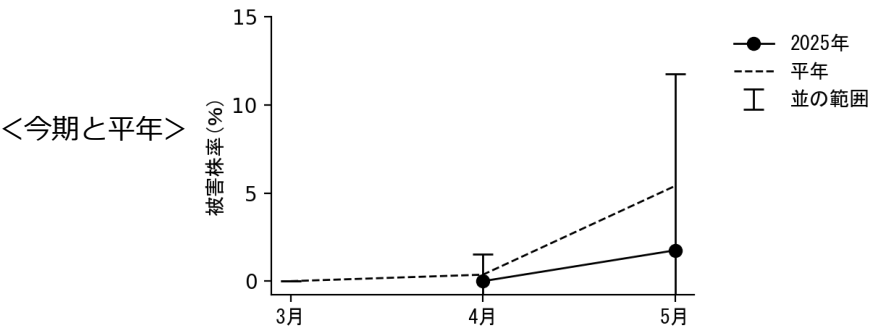


斑点米

作物	水稻（1期）		地域	八重山群島
病害虫名	コブノメイガ			
調査結果	5 月の発生量（平年比）	並		
予報	5 月からの増減傾向	—		
	6 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

被害株率の推移



・発生ほ場率43.8%（平年：30.5%）

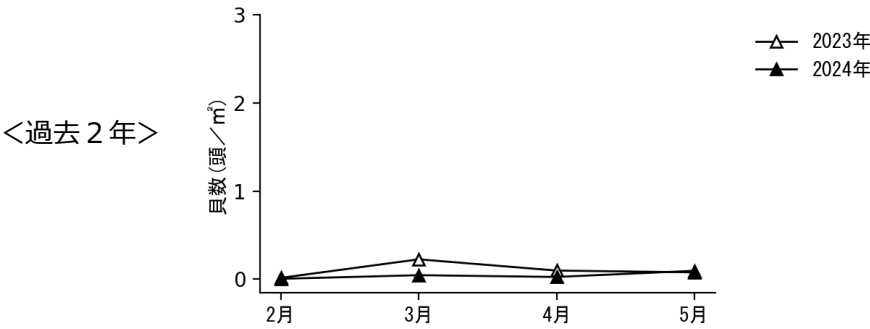
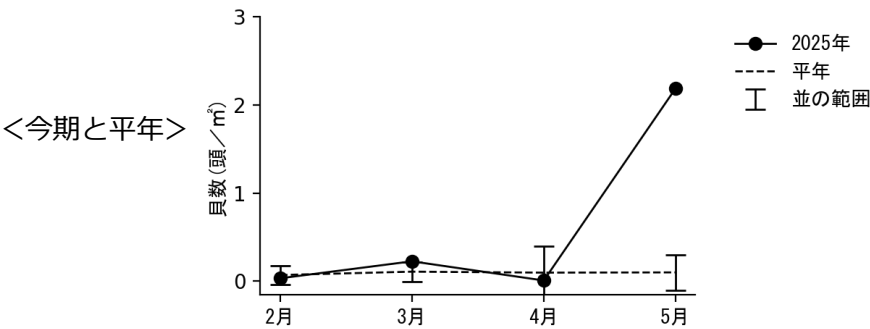
防除のポイント

- ・次作に向けた密度低減を図るため、収穫後に畦畔および水田周辺の除草を行う。

作物	水稻（1期）		地域	八重山群島
病害虫名	スクミリンゴガイ			
調査結果	5月の発生量（平年比）	多		
予報	5月からの増減傾向	—		
	6月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

貝数の推移



・発生ほ場率62.5%（平年：32.2%）

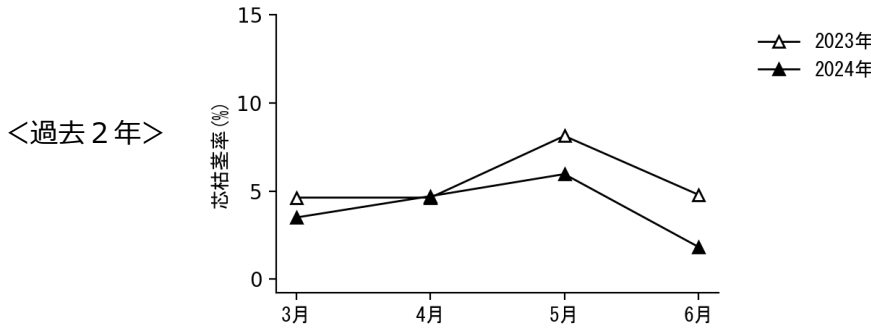
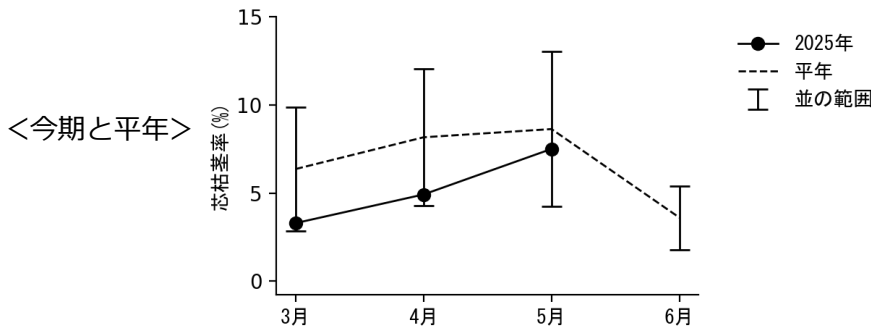
防除のポイント

- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。
- ・次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。人体に有害なセンチュウが寄生している場合があるので、捕殺する際にはゴム手袋を着用する。
- ・収穫後は通常より浅く、遅い速度で丁寧に耕耘し、成貝を破碎する。

作物	さとうきび		地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類（カンシャシクイハマキ・イネヨトウ）			
調査結果	5 月の発生量（平年比）	並		
予報	5 月からの増減傾向	↘		
	6 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

芯枯茎率の推移(株出し)



- ・発生種：カンシャシクイハマキ（65%）、イネヨトウ（35%）
- ・発生ほ場率100%（平年：93.3%）

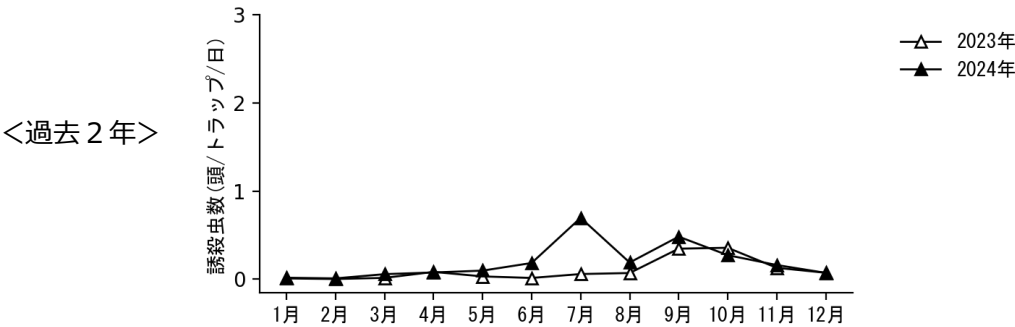
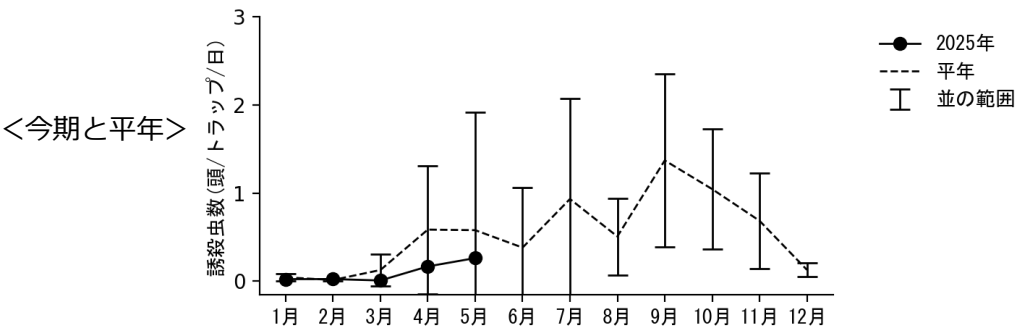
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘と茎のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。

作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ			
調査結果	5 月の発生量（平年比）	並		
予 報	5 月からの増減傾向	→		
	6 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



・発生施設率100%（平年：62.0%）

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

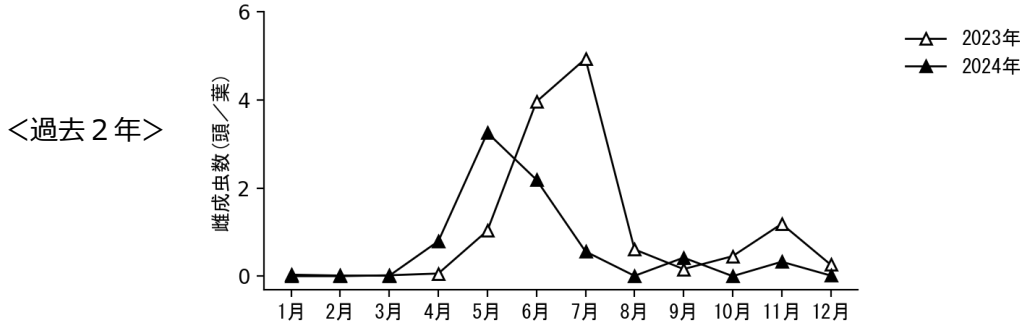
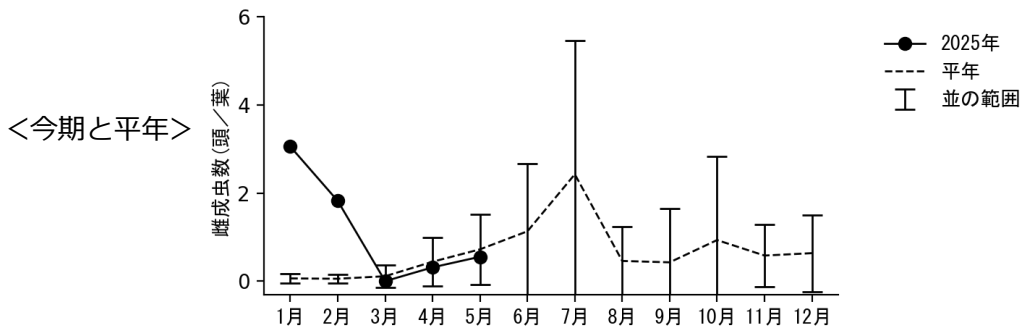


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	② ハダニ類		 マンゴーツメハダニ	
調査結果	5 月の発生量（平年比）	並		
予報	5 月からの増減傾向	↗		
	6 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：マンゴーツメハダニ（95%）、シュレイツメハダニ（5%）
- ・発生施設率60.0%（平年：44.0%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

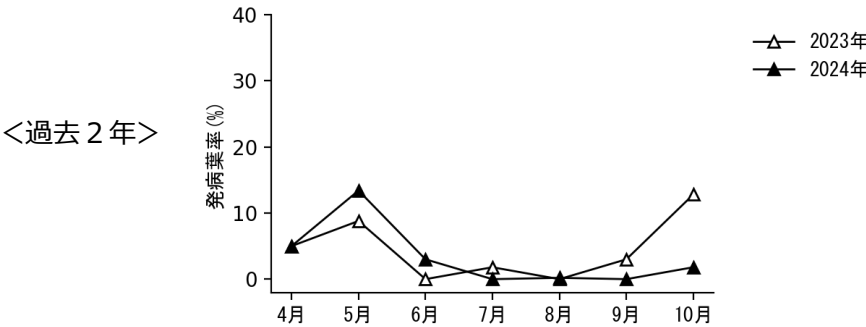
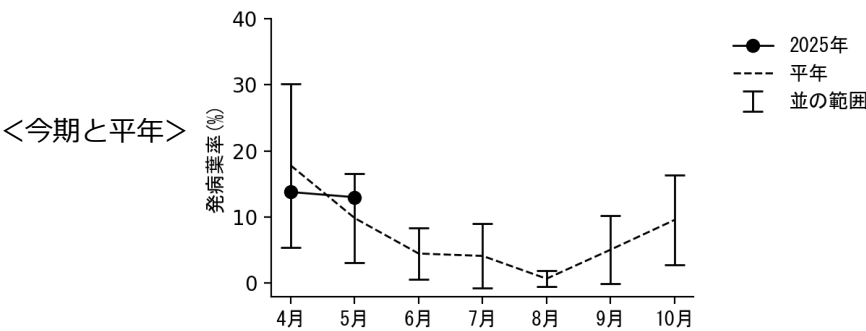


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	5 月の発生量（平年比）	並		
予 報	5 月からの増減傾向	↘		
	6 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率80.0%（平年：57.7%）

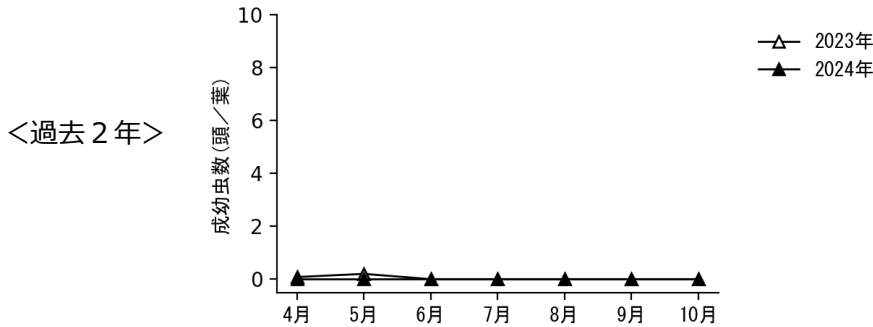
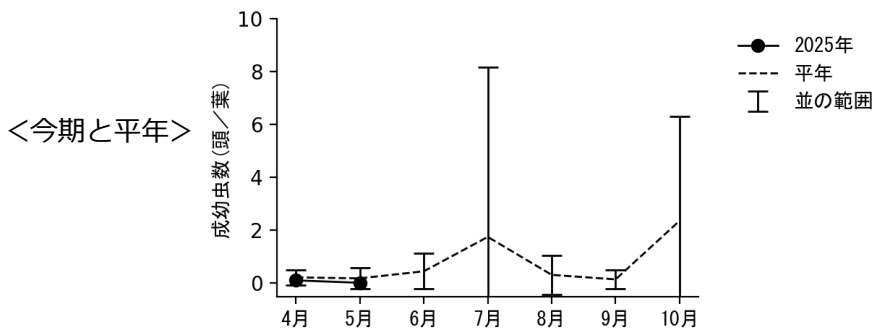
防除のポイント

- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。
- ・被害葉を除去し、適宜薬剤散布を行う。

作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	② アブラムシ類			
調査結果	5 月の発生量（平年比）	並		
予報	5 月からの増減傾向	→		
	6 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率40.0%（平年：30.8%）

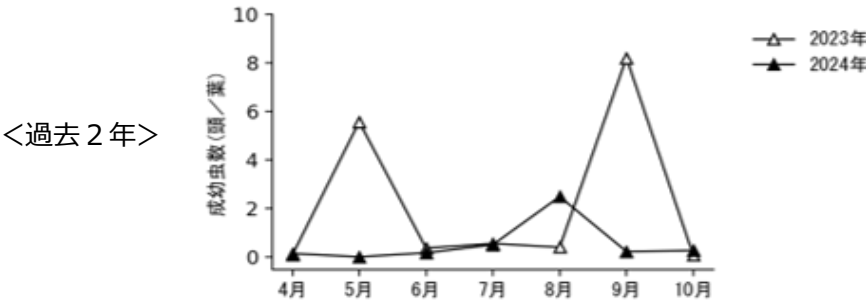
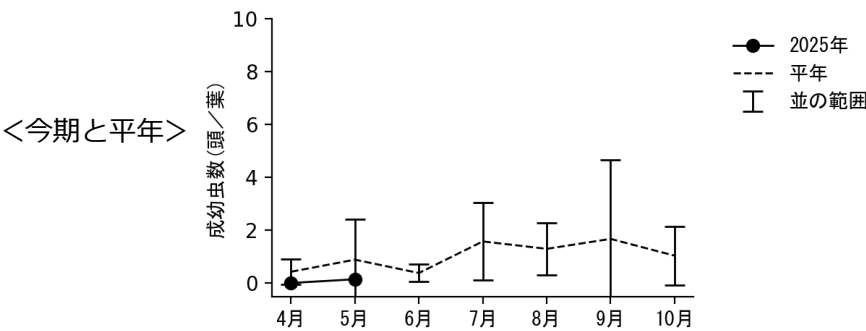
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	③ フタテンミドリヒメヨコバイ		 成虫	
調査結果	5 月の発生量（平年比）	並		
予報	5 月からの増減傾向	→		
	6 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率60.0%（平年：75.0%）

防除のポイント

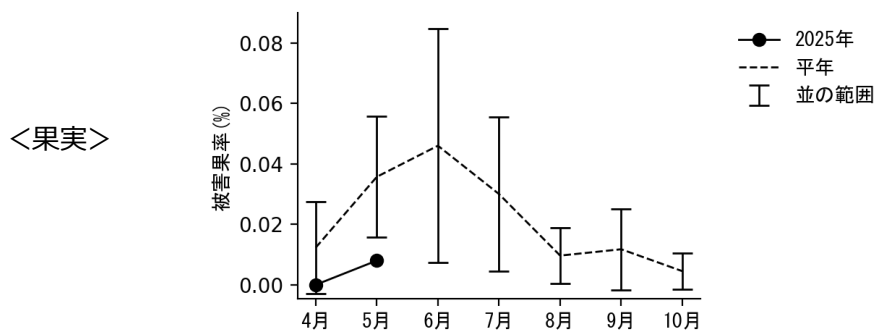
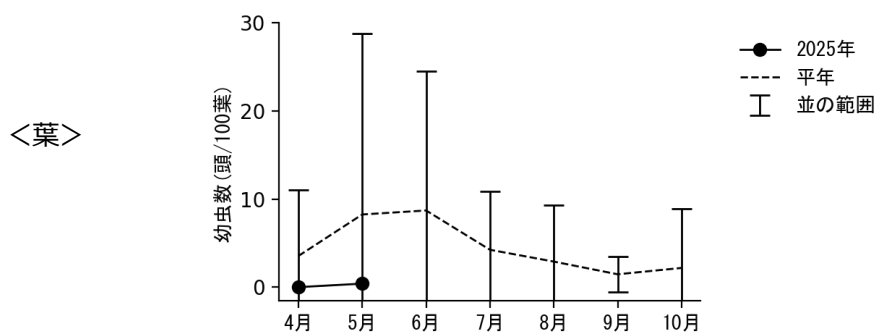
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫		 オオタバコガ	
調査結果	5 月の発生量（平年比）	並		
予報	5 月からの増減傾向	↗		
	6 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

今期と平年の発生推移



- ・発生種：オオタバコガ
- ・発生ほ場率20.0%（平年：38.3%）

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

